

高等教育活性化シリーズ 157 (通算 446 回)

2009 年 12 月 10 日 (木)

21C のリーディング産業の進化——

観光・ツーリズム系の教育・人材ニーズ

～コアパースンからの大学・大学院教育への期待／コーオプ型教育連携～

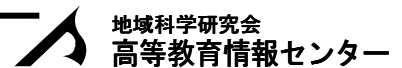
- ※ 観光関連学会の概要／観光政策の変遷と人材育成／地域観光推進／観光教育研究の再構築
- ※ 東アジア旅遊大交流時代／中国政府の旅遊政策／旅遊系国際人材の育成／産学官連携
- ※ 旅行会社の“今”～地殻変動／基幹産業は遠い？／成功例に見る 21C 旅行業／“光を観る”
- ※ 宿泊産業から価値創造産業へ／感性の羅針盤～クレド／最高のホスピタリティを生み出す舞台
- ※ ホスピタリティ大学院構想／文化資本生産と人材形成／大学と企業の分離型システムを超えて

● 講師陣 ●

- 井上 博文 氏 / 東洋大学国際地域学部国際観光学科 教授、ツーリズム学会 会長
 湯 本淵 氏 / 中華人民共和国日本国大使館総務部 公使参事官
 矢嶋 敏朗 氏 / (株)日本旅行 広報室 マネージャー
 高野 登 氏 / 人とホスピタリティ研究所 代表、ザ・リッツ・カールトン・ホテル日本支社 前・支社長
 山本 哲士 氏 / 東京藝術大学 客員教授、
 文化科学高等研究院・国際ホスピタリティ研究センター ゼネラルディレクター

- 企画協力 ツーリズム学会, 国際ホスピタリティ研究センター
 スイス・ジュネーブ国際学術財団 (FEHESC), ローザンヌ・ホテル大学 EHLITE

2009 年 12 月 10 日 (木) 私学会館 アルカディア市ヶ谷 会議室 (東京・市ヶ谷)



日 時 : 2009 年 12 月 10 日 (木) 9:30~16:50
 会 場 : 私学会館 アルカディア市ヶ谷 会議室 (東京・市ヶ谷)
 千代田区九段北 4-2-25 03(3261)9921
 アクセス : 東京メトロ有楽町線・南北線、都営新宿線
 「市ヶ谷駅」A1-1 または A4 出口、
 JR 中央線「市ヶ谷駅」から徒歩 2 分
<http://www.arcadia-jp.org/access.htm>

※会場の地図及び受講証を送付しますので、必ずご確認ください。

参加費 : A. ご一名(資料代込) 42,000 円(消費税込)
 B. メディア参加(資料・音声 CD 送付)
 43,000 円(送料、消費税込)

※ 参加費の払い戻しは致しませんので、申し込まれた方の都合が悪いときには代理の方がご出席ください。

申込方法 : 参加申込書に所要事項を記入のうえ、
 FAX または E-mail にてご送付ください。
 支払方法 : 銀行振込・郵便振替・当日払いがあります。
 みずほ銀行麹町支店 普通 1159880
 三菱東京 UFJ 銀行神田支店 普通 5829767
 三井住友銀行麹町支店 普通 7411658
 郵便振替 00110-8-81660
 全ての口座名 <(株)地域科学研究会 >
 ※ ご請求なき場合は振込受領書を領収書に
 代えさせていただきます。
 申 込 先 : 地域科学研究会・高等教育情報センター
 東京都千代田区一番町 6-4 ライオンズ第 2-106
 Tel : 03(3234)1231 / Fax : 03(3234)4993
 E-mail : kkj@chiikikagaku-k.co.jp
 URL : <http://www.chiikikagaku-k.co.jp/>

☆ FD・SD 及び BD 研修の本格化に伴い、2007 年から受講・修了証明書を発行しております。

キリトリ線(※参加申込みの折は必ずお送りください)

研修会参加申込書

高等教育活性化シリーズ 157

2009 年 月 日

観光・ツーリズム系の教育・人材ニーズ

当日参加 メディア参加
 (□に✓印を入れてください)

勤務先 _____

所在地 〒 _____

TEL _____

FAX _____

連絡部課・担当者 _____

参加者氏名	所属部課役職名	メールアドレス

(通信欄) 支払方法 (郵便振替・当日払い・銀行振込) 必要書類 [請求書 見積書]

※この個人情報は、本セミナーの一連の業務及び今後のご案内に使用させていただきます。

時間	講義項目
9:30 } 10:40	<p>□ 観光・ツーリズム・ホスピタリティの教育研究の再構築 ～観光・余暇関係5学会の共同シンポを踏まえて～ 東洋大学 井上 博文</p> <p>1. 観光関連学会の研究発表概要 (1) 日本余暇学会の考える観光研究 (2) 日本ホスピタリティ・マネジメント学会の観光研究 (3) 日本観光研究学会、日本国際観光学会、ツーリズム学会の観光研究</p> <p>2. わが国の観光政策の変遷と人材育成 (1) 国際的イベント開催時点における観光人材育成 (2) 海外旅行推進時の観光人材育成 (3) 観光立国推進に向けた観光人材育成</p> <p>3. 観光産業、地域観光推進のための人材ニーズと教育 (1) 観光産業人の育成のための人材教育 (2) 地域観光推進する地域行政の人材育成 (3) 地域観光推進に必要な人材と教育</p> <p>4. 観光・ツーリズム、ホスピタリティの教育研究の再構築 (1) 現場主義の観光教育 (2) 観光産業界と大学の連携 (3) 観光立国推進に向けた観光関連学会の役割 (質疑応答)</p>
10:50 } 12:00	<p>□ 東アジア観光大交流時代に向けた産学官連携の展開 ～中日韓観光大臣「共同声明」を踏まえて～ 中華人民共和国在日本国大使館 湯 本淵</p> <p>1. 東アジア旅遊大交流時代を拓く ～中国の役割、日本への期待～</p> <p>2. 中国政府の旅遊政策の展開 ～「迎え入れ」と「送り出し」の拡大～</p> <p>3. 旅遊系国際人財の育成への産学官連携 ～中国国内の取り組みと日本の大学への期待～ (質疑応答)</p>
13:00 } 14:10	<p>□ 総合旅行会社「広報室」から ～日々感じる地殻変動と総合旅行会社が生残る道～ (株)日本旅行 矢嶋 敏朗</p> <p>1. 旅行会社の“今” (1) ネット予約の台頭による地殻変動 <崩壊する従来型旅行業> (2) 価格競争が大部分、利益なき繁忙 <旅行業の流通業化が進む> (3) 新聞記者曰く「旅行記事は隙ネタにしかない」</p> <p>2. 21世紀の基幹産業は遠い？ (1) 時代に取り残され、社会的地位の向上のない旅行関連産業従事者…… (2) 観光学科の学生が旅行業にこない！？ 多発する就職後のミスマッチによる離職 (3) 「高給」「地位」よりお客様に「喜んでもらう」事を幸せとする人種が多いがそろそろ限界？</p> <p>3. 成功例に見る私の考える21世紀の旅行業 ～高額、地域密着、ホスピタリティ重視のツアーの実際～ (1) 1人100万円、特注1億円のバスによる1ヵ月間、「日本1周バスの旅」に見る事例 (2) 1人で年商8億円、日本旅行カリスマ添乗員平田進也「オモシロ企画ヒラタヤ」に見る事例</p> <p>4. 再認識したい。観光の語源は「国の光を観る」 (1) 人々の琴線に触れる旅を！ (2) お客様、受入側（観光地・地域）、旅行関連産業従事者“みんなが幸せになる旅”を！ (3) 観光は、日本を「元気」に出来る！ (質疑応答)</p>
14:20 } 15:30	<p>□ 宿泊産業から価値創造産業へのパラダイムシフト ～感動と伝説が生まれる瞬間とは～ 人とホスピタリティ研究所 高野 登</p> <p>1. 感性の羅針盤—クレドを読み解く ～サービスを超越する瞬間とは～</p> <p>2. 『紳士淑女にお仕える我々も紳士淑女』という誇り ～社員、業者さん、お客様との理想的な関係とは～</p> <p>3. 『心のスイッチ』が入る仕組みづくり ～「考える」を企業体質にするために～</p> <p>4. 最高のホスピタリティを生み出す仕事の基本 ～誇りと喜びを感じる仕事の舞台を創る～ (質疑応答)</p>
15:40 } 16:50	<p>□ 場所観光：ホスピタリティ・ビジネスとホスピタリティ大学院構想 ～文化資本の研究生産と人材形成～ 国際ホスピタリティ研究センター 山本 哲士</p> <p>1. 21世紀はホスピタリティ経済の時代 (1) サービス原理とホスピタリティ原理のちがいが (2) 社会から場所へ：サービス社会経済を超える (3) ロンドン、パリ、ジュネーブのちがいが：プライベートなものとはパブリックなもの</p> <p>2. 場所ツーリズム (1) 地域をこえて場所をつくる：場所消費観光を超える環境づくり (2) ツェルマット（スイス）、マラケシュ（モロッコ）、ヴェネチア、プラハ、ドバイ (3) 場所観光の基準点：武士制の日本</p> <p>3. ホスピタリティ・ビジネス (1) 高級と庶民：マイバッハのケースと巣鴨信用金庫のケース (2) リッツ・カールトンの可能性と限界 (3) 場所観光とホスピタリティ・シティ</p> <p>4. ホスピタリティ大学院構想：Japan Hospitality プロジェクト (1) 哲学設計・学問設計・文化環境設計：場所環境設計 (2) 文化資本形成とホスピタリティ人材教育：大学と企業の分離型システムを超える (3) プロジェクト型教育＝研究生産の大学経営 (質疑応答)</p>